

小諸市における不登校の現状

1 小諸市の不登校の現状

小学校における不登校数は、ほぼ全国並みであり、県平均よりもやや少ない状況である。不登校のピークであった平成29年から徐々に良い方向に進んできている。ただし、全国並みになったので「よし」とするのではなく、各学校、平均すると10名程度の児童が年間30日以上欠席をしている状況を忘れてはならない。

中学校においては、不登校数は中学校1年生2年生で増える傾向にあり、中学校全体で見ると全国平均、県平均よりも多くなってしまっている状況である。中学校の不登校増加については、中学校だけの問題とせず、その芽は小学校から育っていると考えて、小諸市では、小中学校共に10日以上欠席者を毎月教育委員会に報告するとともに、児童が6年生から中学校へ上がる段階で不登校が心配される児童の情報を中学校に丁寧に引き継いでいる。

2 不登校の対応

(1) 施設面

小諸市では、不登校で学校に通えない子どもたちの受け皿とし教育支援センターを設置してそこに教員免許を持った支援員を数名配置し、学力の補充や、体験学習（乗馬、いちご狩り、アニマルセラピー）を行っている。そこには、例年15名程度の児童・生徒が通っており不登校支援員を通じて中学校との情報交換も図っている。また、中学校には、不登校で教室に入れたい生徒のための支援教室を設けてそこに支援員を配置し、不登校の生徒が安心して学べる環境を作っている。

(2) 指導面

① 不登校対策委員会

不登校児童生徒に対する支援として、小諸市教育委員会と小諸市校長会がタイアップして年に4回、不登校対策委員会を行っている。不登校対策委員会では、

各校から選ばれた不登校対策委員が中心となって、自校の不登校児童・生徒への取り組み及び成果について報告し合うとともに、他校の成果を聞き、自校の取り組みに生かすなどして不登校の未然防止に努めている。

また、小中に共通する家庭については、その場で不登校対策委員同士が情報交換を行い、合同で対応していくケースも見られる。今後、小中の連携が進むことにより、こういった小中合同の情報交換が、容易にできていくことが期待される。

② 中1ギャップ解消に向けた取り組み

不登校未然防止のための取り組みの一つとして、成果を上げている取り組みとして中1ギャップ解消の取り組みがある。具体的には、中学校入学前に小学校6年の児童が実際に中学校へ行き、授業参観やクラブ体験を行うといったものや、中学校の先生が実際に小学校へ行き、小学校の児童対象に模擬授業を行い、中学校の様子をより身近に知ってもらうというものである。小学6年生の中学校に対する不安や抵抗をやわらげ、小学校から中学校への移行をよりスムーズに行おうとするものである。これらの取り組みは、不登校の未然防止に対し、確実に成果を上げてきている。

一方で、学校同士の取り組みとなると、実施における互いの了解を得るところからスタートしなければならず、実際に行うまでに多くの時間と労力がかかってしまっていた。これから東中学校区・芦原中学校区共に小中一貫教育に取り組んでいくことで、こうしたマイナス面が解消されていくことが期待される。